

捨てられていた“もみがら”を原料にした もみがら製の筆記具を神河町に寄贈



もみがら



粉碎したもみがら



もみがらを原料にした
ボールペンと鉛筆

もみがら製 鉛筆とボールペン 480本 2021年7月30日に贈呈式

籾殻を“原料”によみがえらせない

株式会社第一精工舎(大阪府大東市)では、捨てられていた廃材(籾殻)を原料とした筆記具(鉛筆・ボールペン)を開発・製品化し、但馬米の産地で知られる兵庫県神河町へ寄贈した。同町では、米の生産量に伴い廃棄される籾殻の処理について、かねてより課題を抱えていた。

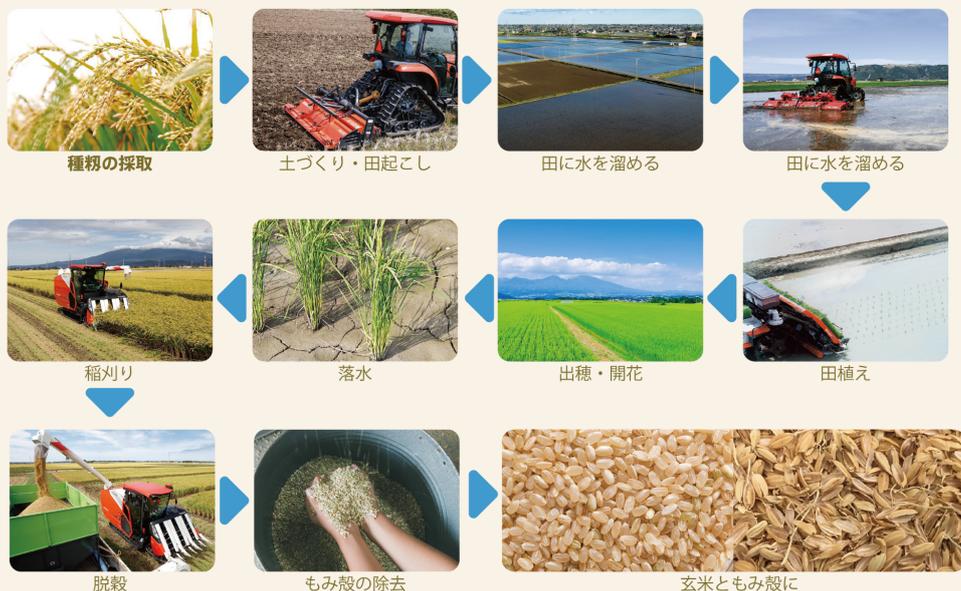
JA・地元企業等と(株)第一精工舎が連携し、共通のテーマである“廃材をなくそう”を具体的な活動として取組をスタートさせた。(株)第一精工舎の独自技術である、あらゆる材料を高い割合で配合・成形する技術を活かし、廃材を活かした商品が完成した。

廃材の地産地消 市内の小学校で環境学習

また、神河町では、市内の小学校3校でSDGsをテーマとした環境学習を企画。籾殻の現状～利活用による環境配慮の取組み・CO2削減量の見える化等を題材とし、製造メーカーの(株)第一精工舎が教鞭をとり、活動の実践内容を児童たちに伝え、身近なモノを通してSDGsを考える切っ掛けづくりとした。今後も新しい環境学習のテーマとして継続していく。



【寄贈先】贈呈式の様子



事業キャラクター
もみがらくん



もみ殻はどこへ？